

平成 29 年産(28 年播)麦生育情報 No.6 (H29.5.11)

(本年産麦の情報は今回が最後です。)

(情報作成)滋賀県農業技術振興センター

滋賀県近江八幡市安土町大中 516 (TEL:0748-46-4391)

1 気象経過と生育状況

① 気象の経過 (彦根気象台観測、平成 19～28 年 (10 年間) の平均値との比較)

要素		平均気温	日照時間	降水量
期間				
4 月	上旬	高い	やや少ない	平年並
	中旬	高い	平年並	多い
	下旬	平年並	かなり多い	少ない
5 月	上旬 (※1)	やや高い	やや多い	かなり少ない

※1 5 月 1 日～7 日の気象

② 生育状況

農業技術振興センター麦類作況調査 (4 月 14 日時点) によると、11 月 4 日播の「農林 61 号」、「ふくさやか」ともに平年に比べて茎数は少なく、草丈はやや短い (表 1 および後掲グラフ)。生育の早晩について、1 月中旬～2 月は低温傾向であったが、4 月以降の気温がやや高く推移したことから、小麦の出穂期および開花期は概ね平年並であった (表 2)。

表 1 平成 29 年産 (28 年播) 麦類作況調査の結果 (農業技術振興センター栽培研究部)

品種名	年次	3/30調査			4/14調査		
		茎数 (本/m ²)	草丈 (cm)	葉数 (枚)	茎数 (本/m ²)	草丈 (cm)	葉数 (枚)
農林61号	H29年産	570	39.9	8.3	530	62.0	9.2
	平年(参考)	666	48.9	8.6	619	69.0	9.3
ふくさやか	H29年産	578	44.6	8.7	524	67.7	9.1
	平年(参考)	634	51.1	8.8	579	69.3	9.3

※播種日：平成 28 年 11 月 4 日。

※平年(参考)は H19～28 年産 (H18～27 年播) の 10 年間の平均値。

※播種量は H23 年産 (H22 年播) までは 10kg/10a 散播 (全面全層播)、H24 年産 (H23 年播) 以降は 8kg/10a 条播 (条間 25 cm、ドリル播)。

表2 麦類作況調査における出穂期～成熟期（農業技術振興センター栽培研究部）

基準播種日	農林61号						ふくさやか						シロガネコムギ			ミノリムギ			ファイバースノウ		
	11/5			11/20			11/5			11/20			11/5			11/5			11/5		
	産年	H29	平年	較差	H29	平年	較差	H29	平年	較差	H29	平年									
出穂期	4/18	4/17	1日遅	4/26	4/24	2日遅	4/15	4/14	1日遅	4/24	4/22	2日遅	4/15	4/13	2日遅	4/21	4/17	4日遅	4/20	4/16	4日遅
開花期	4/28	4/28	同	5/2	5/3	1日早	4/25	4/25	同	5/1	4/30	1日遅	4/25	4/26	1日早	4/25	4/24	1日遅	4/25	4/23	2日遅
成熟期		6/7			6/9			6/3			6/6			6/4			5/28			5/26	

※出穂期および成熟期の平年は10年間の平均値。

※開花期の平年は、「農林61号」、「ふくさやか」、「ミノリムギ」は10年間、「シロガネコムギ」は7年間、「ファイバースノウ」は9年間の平均値。

☆5月8日現在の「農林61号」と「ふくさやか」（農技センター作況調査ほ場）



「農林61号」



「ふくさやか」

表3 登熟期の有効積算気温による小麦の成熟期予測

(H29年5月8日時点、農業技術振興センター)

品種名	1) 播種基準日	1) 出穂期	成熟期予測日 2)			平年の成熟期	昨年の成熟期
			5/9以降の日平均気温 3)				
			平年並の場合	平年+1℃の場合	平年-1℃の場合		
農林61号	11/5	4/18	6/9	6/6	6/12	6/7	5/30
	11/20	4/26	6/11	6/8	6/15	6/9	6/2
ふくさやか	11/5	4/15	6/5	6/2	6/8	6/3	5/27
	11/20	4/24	6/8	6/5	6/11	6/6	5/29

- 1) 播種基準日および出穂期は農業技術振興センター麦類作況調査データ。
- 2) 出穂期の翌日からの有効積算気温(10℃以上)が、「農林61号」は390℃、「ふくさやか」は360℃に最も近くなる日を予測日としている(5/7までの日平均気温は彦根气象台観測データ)。
- 3) 5/8以降の日平均気温はH19年～H28年の10年間の平均値を平年とする。
平年+1℃、-1℃は、5/8以降の日平均気温が毎日、平年値より+1℃、-1℃になったとして計算。

2 今後の管理

(1) 適期収穫

- 麦類の成熟期は、外観上は黄緑色が消失して褐色になり、子実が糊状の硬さに達した時で、収穫適期は、小麦では成熟期から2～4日後、大麦では1～3日後頃になる。
- 収穫は子実水分30%以下になる頃に行う。水分が高いと、穀粒の損傷や品質の低下が著しく、乾燥調製施設の処理能力の低下につながり、コストも高くなる。一方、刈り遅れるほど容積重が低下し、さらに降雨にあうと、倒伏や穂発芽などの品質低下を起こす危険が高まるので注意する。なお、ビール麦は子実水分25%以下で収穫する。
- 有効積算気温による予測では、本年の成熟期は、5月8日時点で、「平年より2日程度遅く、昨年より10日程度遅い」と推測される(表3)。ただし、気象情報によると、5月中旬以降高温に経過すると予報されており、予測より成熟期が早まる可能性があるので、収穫作業が遅れないよう、準備を整えておく。
- 梅雨の合間を縫っての収穫作業になる場合は、立毛の状態でもまめに子実水分を測定するなど、ほ場の観察を十分に行い、ほ場ごとの作業計画を綿密にたて、できるだけ刈り遅れないよう注意する。

(2) 排水対策

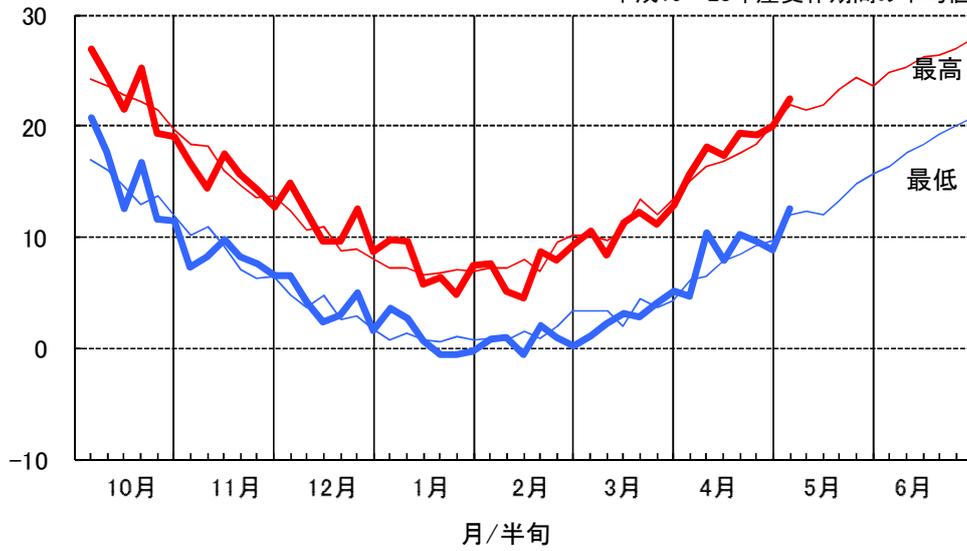
- 登熟期の湿害は減収するだけでなく、加工適性を含め品質を大きく低下させるので、排水溝を今一度点検し、速やかに排水するよう、溝さらえ等を徹底して行う。

【参考サイト】

農業技術振興センター	http://www.pref.shiga.lg.jp/g/nogyo/
病虫害防除所	http://www.pref.shiga.lg.jp/g/byogaichu/
彦根地方气象台	http://www.jma-net.go.jp/hikone/
異常天候早期警戒情報	http://www.jma.go.jp/jp/soukei/

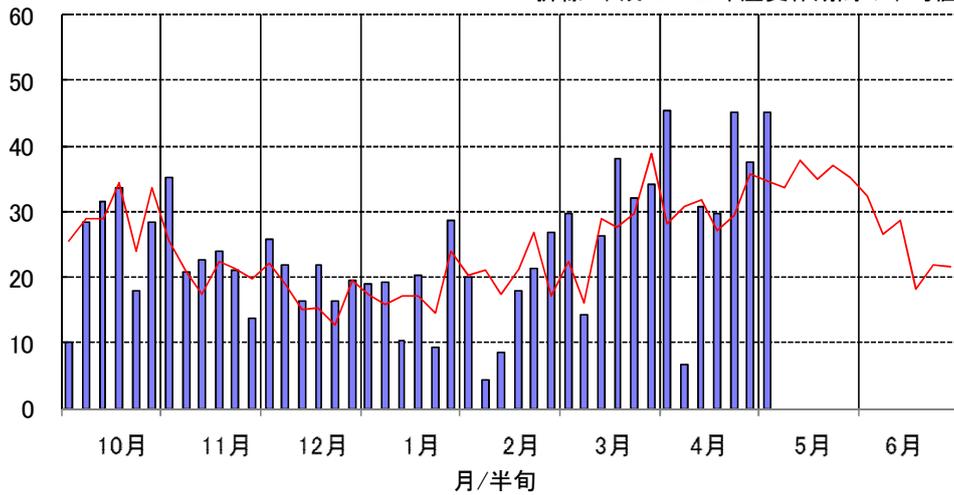
平成29年産(平成28年播) 麦作期間半旬別気象図(彦根気象台観測)

(°C) 【気温の推移(最高気温、最低気温)】 棒線: 本年
折線: 平成19~28年産麦作期間の平均値



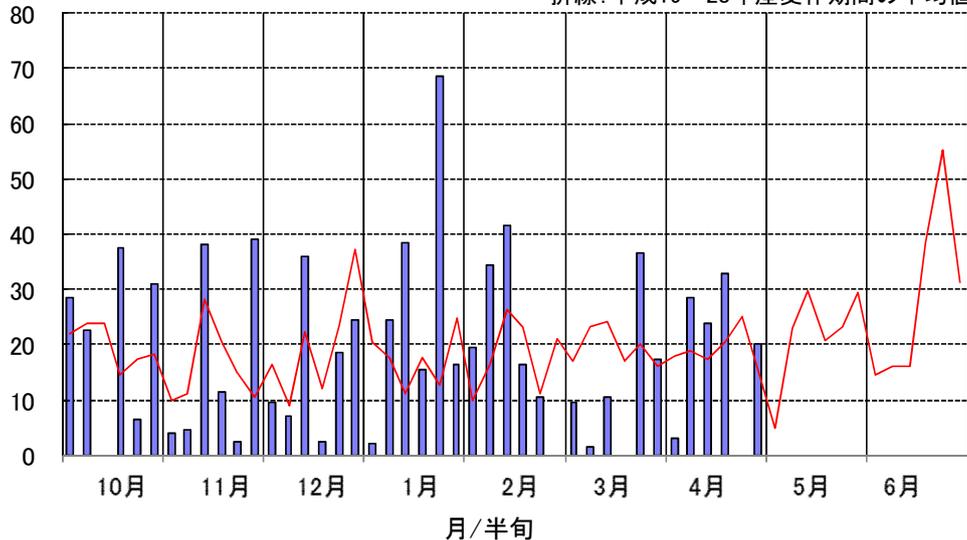
(hr) 【日照時間の推移】

棒線: 本年
折線: 平成19~28年産麦作期間の平均値



(mm) 【降水量の推移】

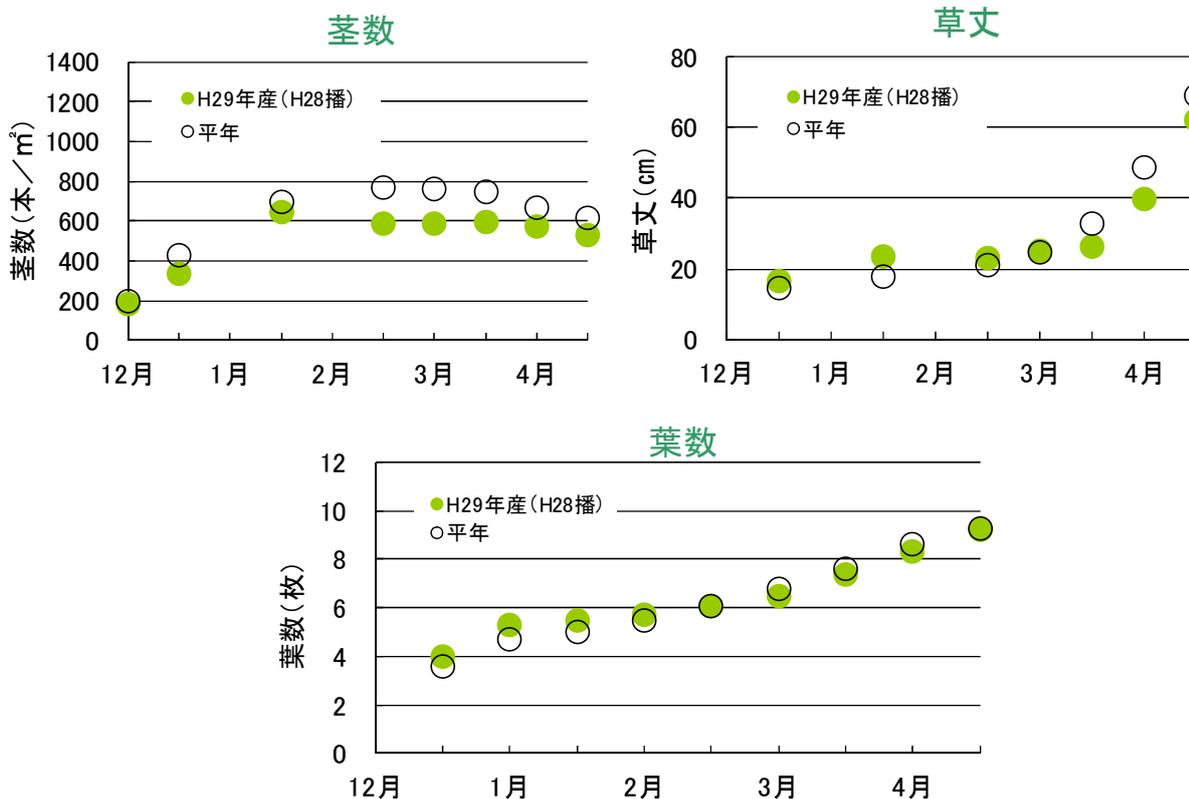
棒線: 本年
折線: 平成19~28年産麦作期間の平均値



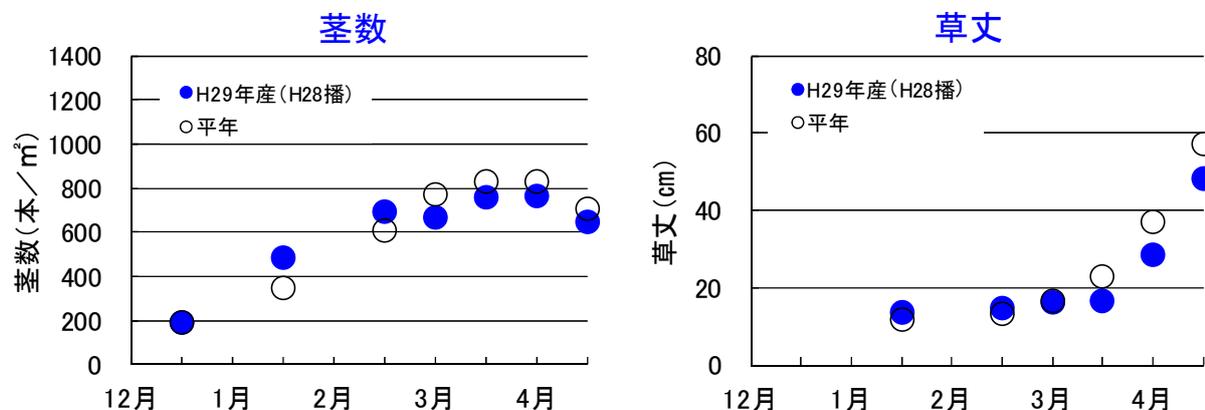
平成 29 年産生育調査結果（1）

「農林61号」

平成28年11月4日播



平成28年11月18日播

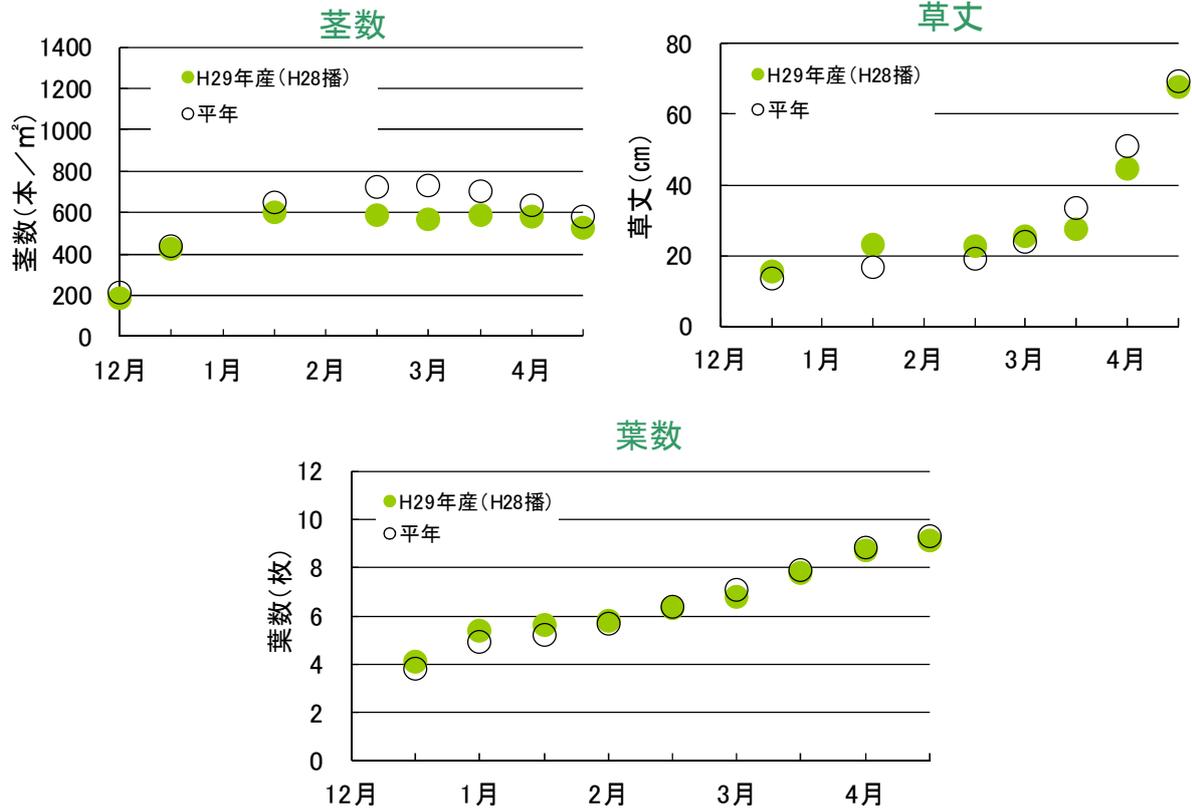


※「農林61号」の草丈、茎数、葉数の平年値は、平成19～28年産(平成18～27年播)の10年間の平均値。
 ※播種：平成24年産(平成23年播)から8kg/10a、条播(ドリル播)。平成23年産(平成22年播)までは10kg/10a、散播(全面全層播)。

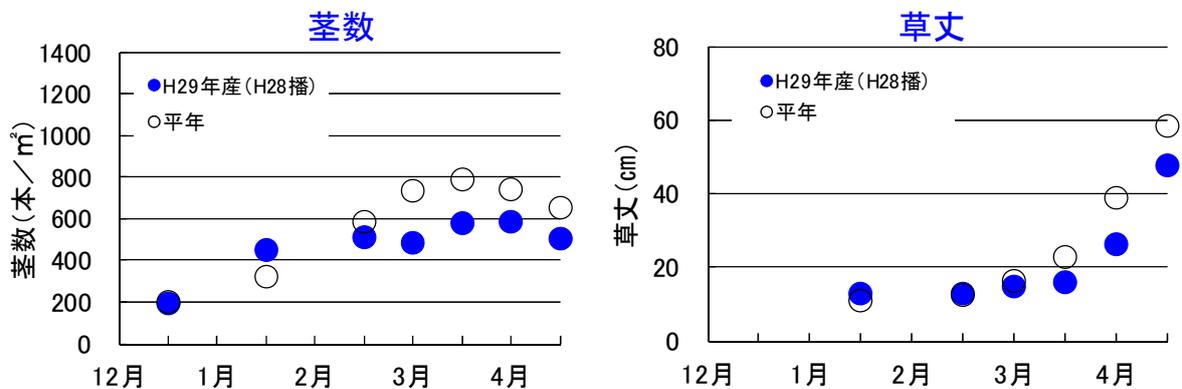
平成29年産生育調査結果（2）

「ふくさやか」

平成28年11月4日播



平成28年11月18日播



※「ふくさやか」の草丈、茎数、葉数の平年値は、平成19～28年産（平成18～27年播）の10年間の平均値。
 ※播種：平成24年産（平成23年播）から8kg/10a、条播（ドリル播）。平成23年産（平成22年播）までは10kg/10a、散播（全面全層播）。